

## 我が校の強み弱み分析・評価シート

### 調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 【結果について】

#### 正答率より

- 今年度は、国語科、算数科、児童質問紙で調査が行われました。国語科、算数科とも、全国より平均正答率が高い結果でした。
- 全国平均値と比較して、国語科の「話すこと・聞くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」、算数科の「数と計算」「データの活用」の項目で平均を上回る正答率となりました。
- 国語科では、「書く力」を問う問題において平均正答率が全国より低い結果となっています。その中で特に「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」の領域に弱さが見られました。
- 算数科では、変化と関係領域の「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」内容の記述問題に弱さが見られました。

#### 質問紙より

- 「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できる」や「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てている」と回答した割合が全国に比べ、とても高いことが分かりました。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」と回答した児童が多く、意見が違ったり、わからないことに対して、調べたり、話し合ったりする活動に主体的に取り組んでいることがうかがえます。
- 全国と比べると ICT 機器の使用頻度に関する値がやや低い結果となりました。

### 【指導の充実に向けて】

- どの教科においても、児童自らが主体的に考え、友だちと話し合い、深い学びができるよう努めます。また、カリキュラムマネジメントの視点を大切に、教科横断的な学習を通して、つけたい力の定着と活用に努めます。
- 校内研究を中心に「対話的な学びを通して 深い学びを求める授業づくり」に取り組みます。
- 意欲を高めたり、見通しをもって学習に臨めたりするように「めあて」を提示し、理解したことや自分の考えの変化、めあての達成度などを「振り返る」活動を充実させます。
- 基本的な計算問題や漢字練習に継続的に取り組みます。また、問題を解くだけにとどまらず、計算式が表していることや、漢字の意味などをしっかりと理解し、応用力・活用力を伴った知識の習得を目指します。
- 調べ学習や、話し合い活動など、学習の内容に合わせて効果的な ICT 活用を行っていきます。
- 「あいさつ」「もくもくそうじ」「きく」の3つの約束を大切にした取り組みを一層推進し、「自分も人も大切に」する児童の育成に努めます。

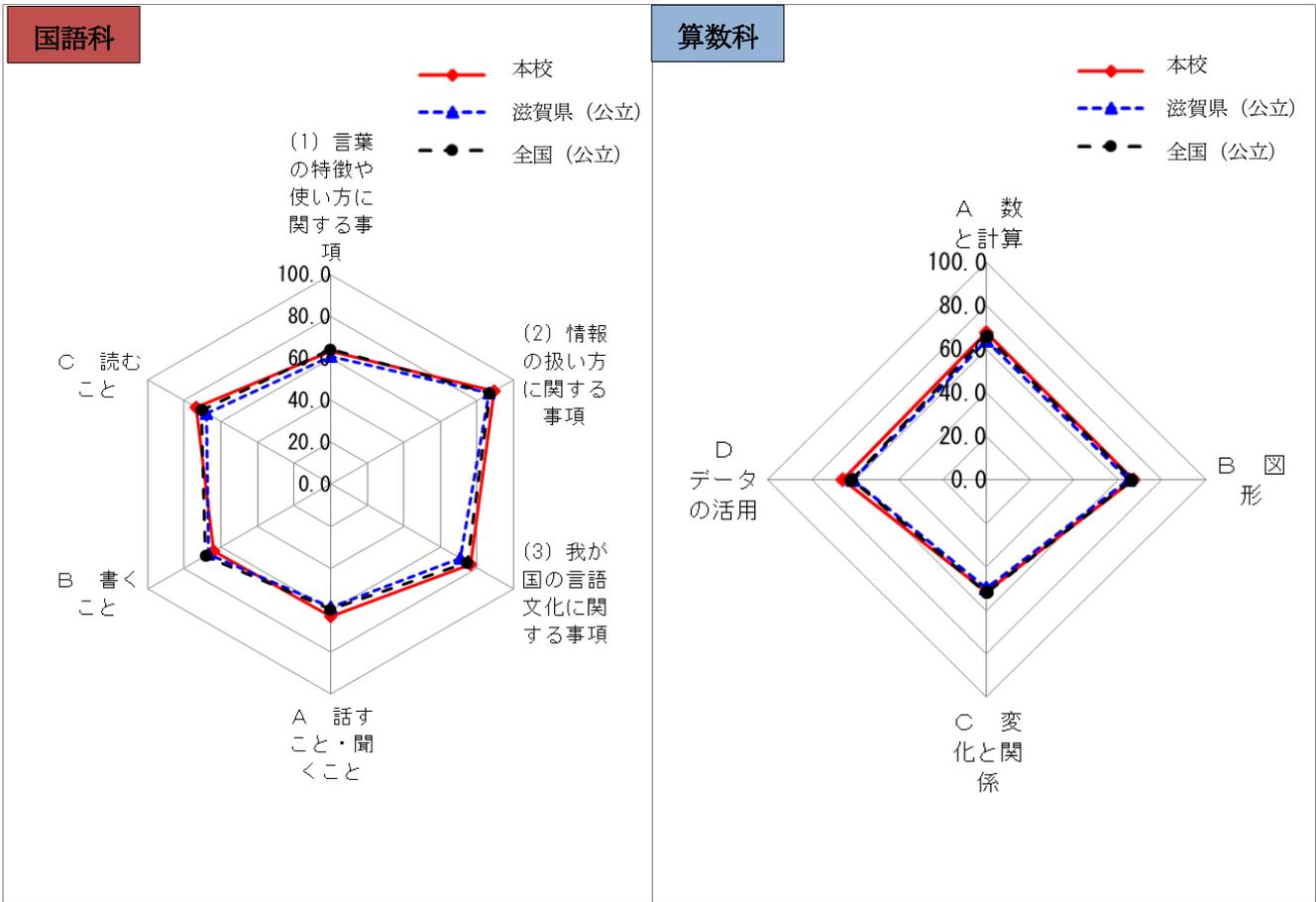
◇強み・弱みレーダーチャート◇

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。

破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



児童質問（全国基準）

